第119号/ ふじのくに静岡県

消防学校ニュース

令和3年8月号

消防職員特別教育　水難救助科第29期　～特別教育　始まる～

6月29日（火）から7月16日（金）まで、県内10消防本部（局）から推薦を受けた24人の消防職員が水難救助科第29期生として本校へ入校し、教育訓練を受けました。

本県は総延長506ｋｍの海岸と数多くの河川や湖等を有しており、また、県内外から多くのレジャー客等が訪れているため、他県と比較すると水難事故が多発しています。そのため、各消防本部にとって、水難救助業務は大変重要な任務の一つとなっています。

本課程では、座学による基礎知識の習得や学校プールでの基礎的な潜水訓練、富士川での急流河川救助訓練、三保海岸及び用宗漁港での実践的な海洋救助訓練を行いました。

（担当教官コメント）

近年、局地的な豪雨、台風による洪水や河川の氾濫が全国的に頻発しており、過酷な現場での活動も想定されます。そこで、訓練においても、連日の大雨で濁流と化した富士川で、訓練を中止することなく、講師、学生、教官が一丸となって安全管理を徹底し、急流河川救助訓練を行いました。濁流のなか、危なげなく訓練をこなす学生を見て頼もしさを感じました。

また、他の訓練でも、随所に学生間で技術に対するアドバイスが飛び交い、水難救助技術向上のため、全員が一丸となって真剣に取り組んでいる姿を見て嬉しさも感じました。

修了生には、本課程で習得した知識と技術、人脈による情報収集を活かして、今後も水難救助対応能力の向上に邁進され、活躍されることを期待しております。

教務課主査　埴淵　茂樹（浜松市消防局から派遣）

学校プールでの基本訓練

学校プールでの潜水訓練

富士川での急流河川救助訓練

三保海岸での海洋訓練

用宗漁港での海洋訓練

水難救助科第 29 期修了生

スキンダイビング訓練［初任科］～水中の要救助者も必ず助ける～

基本泳法

ヘルメットで浮力確保

スノーケリング

スキンダイビング

スローバックによる救助

着衣泳

ズボンを使った浮力の確保

ズボンに空気を入れて裾を絞る

簡易浮き輪の完成

本校には長さ 25m、最大水深５ｍのプールがあり、潜水訓練などの水難救助訓練を実施しています。
７月 19 日（月）から３日間、プールを使用した実科訓練を行いました。指導員は、この道の専門家である民間企業のインストラクターにお願いしています。セルフレスキュー、スキンダイビング、スノーケリング、訓練人形の引上げ救助等を行い、水難救助の理解を深めました。

（担当教官コメント）
初任科でプールを使用した訓練を行う目的は、消防吏員として最低限の水難対処能力を身に付けることにあります。学生により泳力が異なるため、能力に応じて帽子の色を変えるなどの安全管理を行いながら、午前は基本泳法、セルフレスキュー訓練で水難事故から自分自身を守る技術を身に付け、午後はスキンダイビング、溺者救助訓練を行いました。
水難救助資器材のほか、スノーケリングも初めて体験する学生が多いですが、訓練の中で要領を覚え、最後は５メートルプールの底に沈んだ訓練人形を、学生の力で無事に救出成功させました。

教務課主査　谷澤　俊光（県職員）

防災ヘリでの救出訓練展示［初任科］　～ 空からの救出！ ～

８月 11 日（水）14 時 10 分、県所有の消防防災ヘリコプター「オレンジアロー」が飛来し、救出のデモンストレーションを行いました。学生は、テレビ等でしか見たことがないヘリコプターやその救出の様子を目の前で見て、その迫力と頼もしさに刺激を受けていました。

〇オレンジアローの概要

・全長 16.62m、全高 4.98m、全幅 13.8m　・最大巡航速度　278km/h　・最大航続距離　730km

・令和２年度活動状況…水難救助:19 件　救急:15 件　山岳救助:11 件　火災:４件　等

（担当教官コメント）

講義では、航空隊の活動内容の紹介や実事案活動動画の視聴等を通じて、安全管理の徹底や地上隊との連携など、多くの気づきを得ることができました。

訓練展示では、航空隊員の活動、機体からのダウンウォッシュの風、エンジン音などを五感で感じ、航空救助に触れるのが初めての学生にとって、大変貴重な経験となりました。

将来、学生の中から航空隊に任命され、活躍することを期待しています。

教務課主査　早川　淳（磐田市消防本部から派遣）

要救助者救出・消火訓練［初任科］ ～どんな状況でも助ける～

建物からの救出訓練

一箇所吊り担架水平救助訓練

シャッター切断による救出訓練

フロントガラス切断による救出訓練

フレーム切断による救出訓練

車両火災の消火訓練

建物火災の消火訓練

初任科生は入校から基本動作の訓練を繰り返し行ってきました。

それを踏まえて、現在はいろいろな場面を想定しての実践的訓練に取り組んでいます。

困っている市民を適切な方法で助けるために（現場で困らないように）、教官は学生に対して、厳しく、プロとしての技術・知識と心構えを指導しています。

太田校長のちょっといい話

第92期

８月５～６日にかけて、２回目の野外訓練が実施されました。

訓練の様子は、次号の消防学校ニュースで紹介させていただきますが、一人の脱落者もなく訓練を終了することが出来ました。（訓練終了後に何人かはぶっ倒れましたが！）

20kg のリュックを背負い、19 時に富士市マリンプールを出発して学校までの約 30km を夜通し歩き続けている学生たちに対して、「大変だけどがんばれ」「まだまだ出来るだろう。現場はもっと大変だぞ」という気持ちとともに、このような厳しい訓練を地道に行っている若者が国や地域を支えているのだと改めて感じました。

朝５時に学校に到着し、一刻の休息の後にブラインド型訓練として要救助者長距離搬送訓練を指示されたときには、きっと多くの学生は心の中で「最悪」とつぶやいたと思います。

そんな学生たちに声をかけるならこの言葉かなと思ったのが、**「これが最悪だ、などと言えるうちは、まだ最悪ではない」**シェークスピアの言葉ですが、仕事でトラブルが発生した時などに「最悪」という言葉を時々耳にします。自分も時々口にしていたと思いますが、近頃の若者(オヤジくさい？)は、割と簡単に使っていますが、はたから見ていると「最悪なんてそんな物じゃない」と突っ込みたくなります。(自分もそのように見られていたのかも知れませんが。)

それともう一つが**「やったことは、例え失敗しても、20 年後には、笑い話にできる。しかし、やらなかったことは、20 年後には、後悔するだけだ」**これは、アメリカの文豪マーク・トウェインの言葉ですが、自分も小学生の時「トムソーヤの冒険」を何回も読み返して心を躍らせていました。

また、この言葉とともに大好きな「THE BLUE HEARTS の 1000 のバイオリン」の歌詞も頭に浮かびました。「夜の扉を明けて行こう」「何度でも夏の匂いを嗅ごう」「今しか見る事が出来ないものや」といったフレーズが真夏の深夜に黙々と歩いている学生たちの姿とオーバーラップしたからかも知れません。

今回の野外訓練で、初任科生達は、達成感と自信を手に入れたと思いますが、それは、この訓練に挑戦したから得られたものです。

自分も今までの公務員生活の中で大変だった仕事や失敗もいろいろありましたが、今、思えばどちらも良い思い出であり、自分の成長の糧になったと思いますし、昔の同僚たちとの飲み会(２年近く遠ざかっていますが)のときには、苦労話や失敗談の話題でいつも盛り上がります。

多分、初任科生達も何年、何十年か経って、同期生と話をする場があれば、今回の苦しかった野外訓練も笑い話になるのだと思います。

人生を積み重ねる中で、やっぱりやっておけば良かったという後悔も増えていくとは思いますが、消防という仕事の上でやらなかったがための後悔はしないよう、苦しいけれど今がんばることの重要性について学生に考えさせるとともに、学校としてもあれをもっと教えておけば良かったとならないよう、残り１か月を切りましたが教官共々がんばって行きたいと思います。

ソーシャルディスタンス

次号も乞うご期待！
初任科の第２回野外訓練の
様子を中心にお届けします！
お楽しみに！

編集・発行/ 静岡県消防学校　〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190　FAX; 054-369-1197　E-mail;fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内･紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校　検索